

お米の異品種混入(コンタミ)防止チェックリスト 春夏版

種子予措・育苗・移植作業時の コンタミ発生に気をつけましょう

- 産地から出荷する米穀については、「表示銘柄以外の混入のない米穀」である必要があります。
- 取引先から指摘を受けた異品種混入事故は減少傾向にあります。が、「北海道米あんしんネット」における出荷前の安全性検査（DNA鑑定）では、依然として異品種混入サンプルが確認されています。
- 春から夏の作業では、種子予措から移植までの間に「品種の取り違い」がおきやすいため、特に気をつけましょう。

「北海道米あんしんネット」DNA鑑定実施状況と
取引先から指摘を受けた異品種混入事故の状況
(23・24・25年産：26年2月末日現在)
(ホクレン米穀部取扱分)

年産	北海道米あんしんネット DNA鑑定			異品種 混入事故 件数 (件)
	鑑定 点数 (点)	異品種 混入点数 (点)	異品種混入が 確認された場合 (%)	
23	367	18	4.9	12
24	758	22	2.9	7
25	762	15	2.0	1



◎北海道米の評価と実需者・消費者からの信頼を高めるために、産地において「異品種混入ゼロ」の生産・出荷体制確立を目指していきましょう！

種子予措～収穫期までの注意ポイント

①種子予措（3月）

- 指定採種ほ産水稻種子(生産物審査合格種子)を100%使用し、品種固有の純度を保持するとともに、あとで確認ができるように**種子袋のロット番号**を記録しましょう。
- 種子・苗の譲渡・譲受がある場合には、**生産履歴等に相手の氏名・品種・数量・作付ほ場番号などを記録**のうえ、出荷先のJAに報告しましょう。
- 消毒、浸種、催芽、播種の際には「他品種種子の飛び込み」や「品種の取り違い」に注意し、ネット袋に品種名を明示するなど、**品種別の管理を徹底するとともに、品種切り替え時には清掃を徹底**しましょう。
- 芽出し作業時には、**品種切り替え時に催芽機の清掃**を行きましょう。

②育苗（4月）

- 播種作業前に**播種機の清掃**を行い、残留した粉を除去しましょう。
※品種切り替え時には播種機を清掃するほか、使用していた床土や覆土等にも粉が混入している恐れがあるため、注意しましょう。
- 育苗ハウスでは「1品種1棟」を基本とし、**ハウスの入口に品種名と播種月日**を明記しましょう。
※やむを得ず複数品種を育苗する場合は、立札で品種名を明記するとともに、テープで明確に区分をしましょう。



③移植作業（5月）

- 苗取り・苗運搬者には移植品種をわかりやすく示し、**移植時の「苗の取り違い」**に注意しましょう。
- 移植作業で品種を替える際には、**移植機を十分清掃し、付着した苗の除去を徹底**しましょう。
- さし苗（捕植）作業は原則行わないこと**としましょう。
※やむをえず実施する場合は、「苗の取り違い」に注意しましょう。
- 「**浮き苗**」は、**さし苗（捕植）には使用しない**ようにしましょう。
- 品種の混交や自然交雑を避けるため、**1枚のほ場に2品種を配置しない**ようにしましょう。

④ほ場管理（6月・7月・8月）

- 前年産と異なる品種を作付するほ場では、「**野良生え**」に留意して、**除草作業**を入念に行いましょう。
- 出穂期及び穂かがみ期には、**異型株の除去作業（株抜き）**を行きましょう。



出来秋の 乾燥作業に 向けて

平成25年産米において、出荷した米穀の異臭（石油臭）クレームが全道的に多く発生しております。平成26年産米の乾燥作業を実施する前に、乾燥機の整備・清掃などメンテナンスを徹底しましょう。

※ 別途、出来秋前に異臭事故防止に向けたリーフレットを配布予定です。